

2022年4-6月期GDP速報（1次速報値）

～ ポイント解説 ～

令和4年8月15日

内閣府経済社会総合研究所

国民経済計算部

[1] GDP成長率

2022年4-6月期のGDP成長率（季節調整済前期比）は、1次速報値において、実質は0.5%（年率2.2%）と3四半期連続のプラス成長となった。名目は0.3%（年率1.1%）となった。

[2] GDPの内外需別の寄与度

実質GDP成長率（季節調整済前期比）に対する内外需別の寄与度を見ると、国内需要（内需）は0.5%と3四半期連続のプラス寄与となった。財貨・サービスの純輸出（外需）は0.0%と2四半期ぶりのプラス寄与となった。

[3] 需要項目別の動向¹

（1）民間需要の動向

民間最終消費支出については、実質1.1%増と3四半期連続の増加となった。外食、衣服、宿泊、旅客輸送等が増加に寄与したとみられる。

民間住宅については、実質1.9%と4四半期連続の減少となった。

民間企業設備については、実質1.4%増と2四半期ぶりの増加となった。供給側推計の基礎となる総固定資本形成の動きをみると、ソフトウェア等への支出が増加に寄与したとみられる。

民間在庫変動のGDP寄与度については、実質0.4%となった。実質の在庫残高が2022年1-3月期から4-6月期にかけて増加幅を縮小したことから（2022年1-3月期2.9兆円、4-6月期0.7兆円）、その変化分（2.3兆円）がGDP成長率に対してマイナス寄与した²。

¹ 季節調整済前期比について解説。

² 実額はいずれも実質季節調整値（年率表示）。

(2) 公的需要の動向

政府最終消費支出については、実質 0.5%増と 2 四半期連続の増加となった。医療費等が増加に寄与したとみられる。

公的固定資本形成については、実質 0.9%増と 6 四半期ぶりの増加となった。公的在庫変動の GDP 寄与度は、実質 0.0%となった。

(3) 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出については、実質 0.9%増と 8 四半期連続の増加となった。金属製品等が増加に寄与したとみられる。

財貨・サービスの輸入については、実質 0.7%増と 3 四半期連続の増加となった。原油・天然ガス等が増加に寄与したとみられる。

[4] デフレーターの動向

GDP デフレーターについては、季節調整済前期比で 0.3%となった。国内需要デフレーターは前期比 0.9%となった。外需デフレーターはマイナスに寄与した。

GDP デフレーターの前年同期比については、 0.4%となった。

[参考]

[1] G N I (国民総所得) の動向

2022 年 4-6 月期の実質 G N I 成長率は、季節調整済前期比で 0.1% (年率 0.6%) と 2 四半期連続のマイナスとなった³。海外からの実質純所得はプラス寄与 (寄与度 0.2%) となった一方、交易利得がマイナス寄与 (寄与度 0.8%) となった。名目 G N I 成長率については、季節調整済前期比で 0.5% (年率 1.8%) と 3 四半期連続のプラスとなった⁴。

[2] 雇用者報酬の動向

2022 年 4-6 月期の名目雇用者報酬は、前年同期比で 1.7% 増、季節調整済前期比で 0.5% 増となった。前年同期比については、一人当たり賃金、雇用者数ともに増加に寄与した。実質雇用者報酬については、前年同期比で 1.2%、季節調整済前期比で 0.9% となった⁵。

(以上)

³ 実質 G N I = 実質 G D P + 海外からの実質純所得 + 交易利得

⁴ 名目 G N I = 名目 G D P + 海外からの純所得

⁵ 実質雇用者報酬は名目雇用者報酬を家計最終消費支出 (除く持ち家の帰属家賃及び FISIM) デフレーターで除して算出した参考値。